

科目名	ファミリービジネス論特講	担当者	カトウ コウジ 加藤 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	--------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、「ファミリービジネス（同族企業、家族企業）」に係る研究の基本的な科目であり、ファミリービジネスの更なる理解を深めるための出発点となる知識を修得することを目的とする。理論的にも実務的にも有用度の高い分野として、ファミリービジネスの特性を理解し、その運営・継承にあたっての問題点を発見し、解決に向けた基礎知識の獲得を目指す。</p> <p>ファミリービジネスについては、日本は老舗が多く、世界的にも注目が集まっている。地域経済活性化の担い手としてのファミリービジネスへの期待も高い。ただし、海外における注目度に対して、日本では研究が遅れていたが、現在、急速に研究が進んでいるものである。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 ファミリービジネスの経営が一般的な企業経営と何が違うのか、基本的な知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる（知識）。 ・ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いに基づいた経営知識を理解できる（技能）。 ・経営学の理論や心理学などの背景に基づくファミリービジネス研究に触れることで、事業経営に係る課題解決にむけたアイデアを積極的に発信することができる（態度）。 		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略(LS)・アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>課題教材を精読し十分に理解したうえで、具体的な考察を行う必要がある。具体的な事例に当てはめるためには課題教材を学修し、十分な時間をかけて考えることで知識となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の熟読ならびに体系的な理解。 2. ファミリー企業の経営手法の特徴の理解。 3. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の比較。 <p>具体的な企業事例は、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などから入手する。論文、民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源も活用する。受講生の進捗状況・理解度を踏まえつつ、追加的なディスカッション（ケーススタディ）を盛り込む可能性がある。</p> <p>【準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本教材を熟読し、副教材も参考にしつつレポート（初稿）を作成する。【15時間/レポート1本】 ・教員による初期のコメント・指導に基づき、初稿の修正を行う。【15時間/レポート1本】 ・より深い理解に到達するための学修の場となる「複数回の添削指導」を通じて、最終的に提出できるレポートを作成する。最終レポートに到達するまでには、与えられた課題以外に指示された追加資料を確認し、更に自主的に参考資料を探索するという自主的なインプットを行う。このプロセスを通じて、より深い理解に到達する。【15時間/レポート1本】。 		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 学びにあたり、提出期限までに何度かレポートを使って、考え方を確認・交換する必要がある。前後期とも最終提出期限までに十分な時間を確保するために、課題1・2とも以下の期限までに初稿提出すること（前期：7月末、後期：11月末）。 ② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからないために、レポートの初稿を作成できないと感じたときは、開始後1か月程度の早めの時期に、下記「履修者への要望」に記載したアドレスへメールで質問すること。効率的に学習に取り組むために、レポート作成前に、課題取組方針のすり合わせを行うことは望ましいことである。 ③ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を修得し、その考えを踏まえて解答されているか ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答できているか ③ 教材以外の資料を活用して解答しているか（加点項目）
	観察記録	20%	① 最終提出までに複数回のレポート交換ができているか ② 初稿提出期限（最終提出1か月前）が守れているか（減点項目）
履修者への要望	<p>経営関連科目の基礎の理解が前提のため、グローバル経営（MBA）部門のコア5科目につき、非地用に応じ同時履修することが望ましい。また、ファミリービジネス関連の発展科目も履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学修計画のすり合わせを行うために、担当教員（加藤）に連絡すること（kato.koji115@nihon-u.ac.jp）</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	① ファミリービジネス学会編, 奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス 著者名: ス: その永続性を探る』(中央経済社, 2016年) 教材名: ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
	② ジャスティン・B・クレイグ他 『ビジネススクールで教えているファミリービジネス 著者名: ス経営論』(プレジデント社, 2019年) 教材名: ISBN:978-4-833-42325-0 2,750円+税
	教材①はファミリービジネスの実態及び研究領域について幅広く論じたものとして, 基礎的な研究成果が概説されている。教材②はケーススタディを交え深い理解に適している。いずれもファミリービジネスの実態の理解と基本的な理論に基づくその優位性・特徴に対する論点整理を進めることに適している。
参考図書	倉科敏材編『オーナー企業の経営: 進化するファミリービジネス』(中央経済社, 2008年) ISBN:978-4-502-66160-0 2,600円+税 小野田鶴, 日経トップリーダー『星野佳路と考えるファミリービジネスの教科書』(日経BP, 2019年) ISBN:978-4-296-10444-1 1,980円+税 階戸照雄, 加藤孝治『ファミリーガバナンス スムーズな業承継を進めるために』 ISBN:978-4-50-2344718 2,450円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でファミリービジネスがどのような位置づけにあるのかを理解する。 ・ファミリービジネスが非ファミリービジネスとどのような点が異なるのかを理解する ・ファミリービジネスが持つ「革新性」を理解する
レポート課題 1	スリー・サークル・モデル及びスリー・ディメンション・モデルに基づき, ファミリービジネスの非ファミリービジネスとの違いを説明せよ。 留意点: ファミリービジネスにおける3つの利害関係者の存在と時間的な経過による変化の様相を論じること。
レポート課題 2	ファミリー・アントレプレナーについて, 通常のベンチャー企業との違いに着眼して説明せよ。 留意点: ファミリービジネスでは, 単に守旧的に事業の存続を考えるのではなく, 常に新しいチャレンジを行っている。その取り組みが成立する背景をファミリーとの関係で説明してほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名: ジャスティン・B・クレイグ他『ビジネススクールで教えているファミリービジネス 教材名: 経営論』(プレジデント社, 2019年) ISBN:978-4-833-42325-0 2,750円+税
	長期的な計画でマネジメントされているファミリー企業は, 非ファミリー企業に比べて業績において優れており, 寿命が長いという研究もあるが, その一方で, 閉鎖性, 保守性, 内紛や私物化, 人材不足, 事業承継の失敗など, 特有の経営課題も抱えていることが指摘されている。教材には事例を踏まえながら, その解決策が提示されているので, その適否を考えながら読み進めてほしい。
参考図書	(以下の図書は絶版ですが, ファミリービジネスの基本図書です。図書館などでご確認ください) ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』(流通科学大学出版, 1999年) ISBN:978-4-94-774630-6 2,800円+税 デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編『ファミリービジネス永続の戦略』(ダイヤモンド社, 2007年) ISBN:978-4-478-33125-5 2,000円+税 ダニー・ミラー, イザベル・ル・ブルトン=ミラー『同族経営はなぜ強いのか?』(ランダムハウス講談社, 2005年) ISBN:978-4-270-00072-1 3,200円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリービジネス経営に必要な知識は, 経営の基礎知識がベースであることを理解する ・自社の経営だけでなく社会貢献を意識することにファミリービジネスの特徴を見出す ・次世代に事業を継承するために必要なことは何か, その基本的な知識を身に着ける
レポート課題 1	・ファミリービジネスと非ファミリービジネスの違いをスチュワードシップの観点から説明せよ。 留意点: 「スチュワードシップを考えると, 非ファミリービジネスとの違いが最も明確になる」との教材著者の主張を踏まえて, 違いが分かるように説明することが求められる。
レポート課題 2	・ファミリービジネスにおけるリーダーの役割について, 説明せよ。 留意点: ファミリービジネスを率いるためにファミリーの視点, ビジネスの視点で求められるリーダーシップを, 課題図書全体を通じて確認し, 説明することが必要となる。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（第 1 章）
第 2 回	「学修の進め方」について教員との意見交換。教材に基づく学修②（第 2 章）
第 3 回	教材 1 に基づく学修③（第 3・4 章）
第 4 回	教材 1 に基づく学修④（第 5・6 章）
第 5 回	教材 1 に基づく学修⑤（第 7.8 章）
第 6 回	教材 1 に基づく学修⑥（第 9 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第 7 回	教材 1 に基づく学修⑦（終章）
第 8 回	教材 2 に基づく学修①（第 I 部 第 1・2 章）
第 9 回	教材 2 に基づく学修②（第 I 部 第 3 章）
第 10 回	教材 2 に基づく学修③（第 I 部 第 4 章）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解。教材に基づく学修①（XXXX）
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換。教材に基づく学修②（XXXX）
第 3 回	教材に基づく学修③（第 I 部第 5 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（第 II 部第 6 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（第 II 部第 7 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（第 II 部第 8 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有
第 7 回	教材に基づく学修⑦（第 II 部第 9 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（第 II 部第 10 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（第 II 部第 11 章）
第 10 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿提出
第 11 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 12 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 13 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容再検討
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポート提出